

だれのことを、伝えに？

小島きみ子

秋の陽射しを通り抜けて、透き通っていくものは、だれの蔭？ だれの息？ だれの匂い？ だれのことばを、伝えにあなたは、此処へきましたか。愛がとどかない。人は人を怖れて、寡黙になり、手をポケットにつこんだまま、握手しようとはしない。見つめる心を速くまで飛ばす、心で話す、心で歌う、心で抱きしめる、だれの声で？ だれのことばで？ だれの息で？ だれの匂いで？ だれのことばを、伝えにあなたは、此処へきましたか。離れて、響きあうもの、ふたつの心を融かすのは、透き通っていく、千の妖精の羽の音。密やかな、喜びをリボンで、包んで、贈る日。夢かと思ふ、薔薇色の夢が、夢の果てからくる日。その夢を逃さないように、桃色のリボンで封印する朝だった。あなたから差し出されたのは、大きな真珠のペンダントだったので、草のなかに埋めました。夜になって、もう一度みるために、朝がやってきてもう一度みるために、午睡の夢の中で出会った声は、白く輝く純白の愛だった。

たくさんさんの、たくさんさんの光の葉っぱが舞い降りてきて、(ついでおいで、しんはいしなくていいから、(ついでおいで、と、言うのでした。光の手は、森の奥へと誘い、此処で待っているようにと、心で言いました。ドロップやクッキーが、花々のやさしい声のなかに、降ってきました。(あなたに、(あなたに、と、囁くのです。森の妖精の声です。微笑み。よい香りのする微笑みでした。(どう？ 気に入った？ (此処で暮らすのですよ。夢のはての夢からやってきた、千の高原で咲く花の心。千の血と愛の知と愛の、母の乳と愛のことばを聴くこと。愛は、裏切らない、愛は、人と人が、哀しみと、喜びを、わかちあうもの、花と花が、地上に有るように、人と人も、この地上に、有るものだから、ただひとつの、心と魂の、真珠色の愛だった。「青」と「空」の、「空」と「青」の、眩しい声だったので、もう何もみることが聴くこともできなかった。

かべ 坂多壁子

かべの中でくるくる変わるイキモノ
ワニになったり
ネコになったり
「変わるなよ」
ワニがいった
「変わらないわよ」
あたしがいった
「なににきた」
ネコがいった
あたしが
ならみつけていると
黒い点になって
芋虫のぬげがらみたいなヤツが
できて
あつという間に外に
だからあたしは急いで追いかけた
便所の戸ぐらいちゃんとしめんさい
しめんさい しめんさい
母の小言が
黒い点に吸い込まれて
のぞいたあたしも吸い込まれて
ワニになったり
ネコになったり

破・短調 森山 恵

とおく 峰の辺り
夏の和音が移り変わるころ
こはく色を帯びる
開
けものめく
ピアノ
の黒鍵 打つ
狂う
ほんの少し
気づかない程の小さな揺らぎ
だったものの
狂いはじめ
もつと以前のこと
誰も知らない
なにかが変わっていくことに
人は
日々の
一言
諧調を支える中心の
ラ音
の狂い
も う激しく狂
つ
て
あゝ指の下
取り返しつかない
黒鍵 もの狂い
ポレロの繰り返した
こぼれ落ちていた
おと
とお
ポレロ ポレロポレロ
ポレロ

おはよう 平井達也

早朝の路切で酔った私はレールに置き石しようとしている。鳥どもが目覚めて腐りかけのちくわみたいなのを舞い始める。穏健派はもうしばらく夢の中だ。新聞配達人がまだ目を通してない朝刊の内容を気にしながらスクーターを走らせる。朝の街の空気は内容物のない胃から無理矢理吐き出した胃液のように透き通っている。酸っぱい希望に包まれて私たちは何か始めようとしている。鳥が狙う原則にはちくわの原則通り空洞がある。空洞の向こうで夫婦生活が脱線している。私が家の便器にたどり着くまであと七分で始発が走り始めるまであと十五分。牛丼屋は開いているがこの時刻のメニューはない。早くし定食だけだ。穏健派の夢は幸福な結末へと向かっている。遺失物になりそうな私は鍵を握りしめる。集積所に昨夜のうちに置かれた雑誌の表紙で女はバジャマからワンピースに着替える。線路沿いの暗渠で着信拒否された呼び出し音が鳴り続けている。おはようこんな私を住まわせてくれているゴマ油で香りづけされた街。大好きだよ一晩に十件のメールをくれた誰かさん。

雲が動いたあと 久野雅幸

雲が動いたあと
空に
もとの雲の形をした
水のかたまりが残っていた
落ちてこないし
蒸発もしない
人が動いたあと
ベンチに
もとの人の形をした
青い透明なものが残っていた
動かないし
倒れもしない
気がつかないうちに
置き去りにしているものは
いろいろある
ほんとうには
それが
わたしたちにとって
とても
たいせつなもので
あったとしても
立ち止まり
空を見上げて
雨上がりの空がきれいだったと思った
その気持ち
など

ブラセボ 二条千河

万能薬は存在する
風邪も頭痛も腹痛も
癌も結核も脳梗塞も
あらゆる症状に効き目があり
しかも副作用のない妙薬が
確かに存在する
(医薬品です)
病人が減ると困る連中は
詐欺だインチキだと喧しいけれど
カプセルの中身がからっぽなのは
動画サイトでも公表されている衆知の事実だ
水溶性の殻に充填された
○三ミリリットルばかりの中空
なるほど偽薬には違いないが
誰も騙されてなどいないのだから
気休めではありえない
薬効は本物だ
(この薬は使用上の注意をよく読み
用法・用量を守って正しくお使いください)
広告では明言を避けているが
確かにそれは万能薬だ
打撲も痔疾も水虫も
鬱に認知症、恋思いさえ
あらゆる症状に効き目があり
しかも苦みの一切ない市販薬
かくして健康は
いつでも手の届くところにいる
(ペン・ボン！)



米山浩平

また見つかった
何が
永遠が
ランボーを読んでいるぼくだ
おそらく！
全人類は戦慄するだろう
ポエムの改行とエクスクラメーションマークの必然に！
たぶん！
ぼくは震撼しているのだろう
自動車のマフラーを口にくわえて
排気ガスを吸っている百億人の勇気に！
硫酸の原液を
水で割らずにロックで飲む百億人の良識に！
日夜 彼らの臓器は異物摂取の修行にはげむ
なんという勤勉さだ
ぼくはといえばトンカチをオモチャにして遊んでいるだけだ
頭がさがる思いだ！
たぶん！
ぼくはうらやんでいる連いない
円周率の暗記を止めない百億の学徒に！
架空の新興ウイルスの発見とか
謎めいた生態を究明する百億の研究者に！
一千億光年後
老若男女は有用性から最も遠く離れた勤労を獲得するだろう
それは永遠に終わらない
しかし！
ソースの壘は破廉恥すぎやしないか
みんな裂けてしまえ
コレガ運命トイウモノダ
ソレモ運命トイウモノダ
景気ハ感受性ニ運命ヲモタラス
マーガリン マーリン ブルー
完璧な×○△などといったものは存在しない
完璧な××○が××××××××××
おお 未来世紀のレトリックだ
唯一無二の大大大大大大大大大大大宇宙の真理
圧倒的人間だもの永久革命的第三世界的剽窃仏教的陶醉
魔術的神秘的呪術的戦略的エロスの超多義的法解釈的幻惑
ぼくはいま！
天動説の根拠を必死になつて聖書の中に探している
ぼくは書く！
ぼくの彫刻刀は燃えている
消し忘れたまま外へ飛び出してしまった
どうにでもなれだ
ぼくの彫刻刀が火元になって
全宇宙が焼きつくされる！

étude 四肆舞 61/63 池田 康

《61》
自分の手はきれいと思つていのですか皆さん
あなたも人を殺しているのです
嘘をついてはいけません
自分の心の奥を覗いてごらん下さい
その汚れた手はどんな石鹸で洗つてもきれいになりません
その手が悪いことをしないように気をつけましょう
手袋をしたつて無駄です
指紋は残らないかもしれませんが
あなたを追つて刑事が来ました
明日あなたの裁判が始まります
裁判官は十年前に判決文を書いてしまつています
証拠はあなたの罪深い幸福です
あなたは反省しますか
嘘をついてはいけません
あなたの手は汚れたままではありませんか
ハンカチはあなたに使われることを拒否します
《63》
波の上をすべる板
の上に乗る無名者
太陽ににらまれ
海におどされ
波の上ではなにも考えない
大事も此事も 自分さえも
明日も人生も世界もうせて
ゆえに無名者
名前をさがしてすべる
のではなくむしろ
名前に捕まらないように
波とともに疾走する 無名者
太陽はにらみ
海はおどすも
波は永遠に立ち
無名者はどこまでも逃走する

